

## 所長あいさつ

宮城教育大学 教授・哲学

川崎 惣一



宮城教育大学上廣倫理教育アカデミーは、公益財団法人 上廣倫理財団のサポートのもと、「探究の対話 (p4c)」を学校現場に普及させ、さらに発展・深化させていくことで、地域の教育活動に貢献することをミッションとしております。

「探究の対話 (p4c)」は、子どもたちが対話を通じて「聴く・話す・考える・問う」という力を伸ばすことのできる、汎用性と発展性とを兼ね備えた実践であり、これを教育活動のなかに取り入れることで、「主体的・対話的で深い学び」を効果的に実現することができるようになります。さらに、セーフティのある集団づくりを通じて、子どもたちの自己肯定感を高めることや、よりよい学級経営にも寄与してきます。

本アカデミーとしては、さらに教員を目指す宮城教育大学生にも、授業や課外活動等を通じて、「探究の対話 (p4c)」の意義と面白さを実感してもらう機会を設けていきたいとも考えています。

これからも、所員が一丸となって、さらなる活動の充実を目指していく所存です。



宮城教育大学 philosophy for children  
上廣倫理教育アカデミー

philosophy for children

宮城教育大学

上廣倫理教育アカデミー

## 学長あいさつ

宮城教育大学 学長

松岡 尚敏



大学での学びは、高等学校までの「学習」という言葉に替えて「学修」という言葉が使われます。この言葉の中には、「自ら問いを見いだし、主体的に学ぶ」とか「答えのない課題に対して多面的・多角的に探究する」「他者と協働しながら新たな価値を創造する」といった学びの姿が含まれています。

宮城教育大学では、2017年4月、公益財団法人上廣倫理財団の支援をいただき、寄附部門として上廣倫理教育アカデミーを設置し、自分で問いを立て、対話を通して互いの考えを深めていく「探究の対話 (p4c)」の実践・研究に取り組んでいます。令和3年に示された中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」では、個別最適な学びと協働的な学びが、今後の学びの方向として示されました。この二つを繋いで一体化していくための有効な教育的アプローチとして「探究の対話 (p4c)」は、大きな役割をはたすことができると期待しております。

今後も「探究の対話 (p4c)」を通して、学校現場での実践を支援するとともに、これからの教育を担う高い資質を有する教員の養成に尽力していく所存です。

## 令和6年度 上廣倫理教育アカデミースタッフ

所長：川崎 惣一(宮城教育大学教授・哲学)

副所長：堤 祐子

プロジェクトメンバー(川崎惣一所長含む4名)：

佐藤 哲也(宮城教育大学教授・幼児教育学)

菅原 正則(宮城教育大学教授・住居学)

久保 順也(宮城教育大学教授・臨床心理学)

特任教授：岩田 光世 菅原 弘一 原 新太郎

教育支援コーディネーター：

日置 利道 明石 清二 齊藤 直

田辺 泰宏 又木 潤

事務補佐：本間 紫織

お問合せ先

国立大学法人宮城教育大学 上廣倫理教育アカデミー

〒980-0845 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 149

TEL 022-214-3611 FAX 022-214-3751

H P <http://p4c-miyagi.com>



2024年4月発行

## 「探究の対話 (p4c)」という学び

「探究の対話 (p4c)」は、探究の源である「問い」を大切にしています。「不思議だな」「知りたいな」という全ての人の中にある「問い」について、安全で安心な空間で参加者が対話を進め内容について考えを広めたり深めたりします。

## アカデミーの歴史

2011年3月11日に東日本大震災が発生して以来、宮城教育大学は被災地の子どもたちの心のケアを重要な課題として認識し、その対応について模索していました。

震災より2年後、ハワイ大学の先生方が被災地で実践してくださった「子どもの哲学 (p4c)」には子どもたちの心を癒し開放する効果があると確信し、ここ宮城での「探究の対話 (p4c)」がスタートしました。

2017年4月に誕生した「上廣倫理教育アカデミー」は、公益財団法人 上廣倫理財団の支援を受け、前身の「上廣倫理・哲学教育研究室」から、さらに活動の充実と発展を図るべく改組・設立されました。学校現場等への「探究の対話 (p4c)」の理論や実践を紹介・支援するとともに、将来教壇に立つ学生や現職教員への積極的な啓発に取り組んでいます。



## 本アカデミーの目的

教員養成及び学校教育における「探究の対話 (p4c)」について研究するとともに、その成果を活用した研修の機会を、宮城県をはじめとする地域の教育関係者に提供する。このことにより、本学の学生の主体的・対話的な学びの力と教員としての資質能力の育成、並びに学校等の教育活動における「探究の対話 (p4c)」の充実に寄与することを目的とする。

### 第2期基本方針

主な事業として、以下の7事業を行う。

- (1) 運営事業
- (2) 主催研修事業
- (3) 広報事業
- (4) 重点事業
- (5) 大学連携事業
- (6) 教育委員会連携事業
- (7) 要請研修事業

### 対話で育む探究的な学び



国立政策研究所 総括研究官  
西野 真由美

PISA調査2022年の結果が発表され、コロナ禍を経て子どもたちの学力や学校への所属感が良好であることが示された。日本は教育の質やウェルビーイングにおいて高い評価を得ている。今後の学校教育では、日本人の強みである協働の中で一人一人が自ら学びをデザインする「自律学習」と「自己調整学習」に支えられた探究的な学びの実現が重視され、学びを通じて自己と社会の幸せや成長を追求することが提案されている。「問う」ことは他者を必要とする営みで、その対話の豊かな体験が自己内対話の力を育てる。「探究の対話 (p4c)」には、学校と地域の多様な人々の支え合いの中で、人間らしい試行錯誤のある探究的な学びと成長の機会を提供することが期待されている。

## 本アカデミーの活動

### 主催研修事業

#### ●「探究の対話 (p4c)」シンポジウムの開催

毎年12月 基調提案・講演、パネルディスカッション・ラウンドテーブル



#### ●「探究の対話 (p4c)」実践研究会

8月に実践者からの話題提供、研究発表・協議

#### ●定例研修会

年6回程度、オンライン開催、話題提供・対話での情報共有

#### ●ハワイ上廣アカデミーとの定例ミーティング

ハワイ上廣アカデミーとの定期的なZoomミーティング、実践と研究の交流

#### ●p4cトーク

「探究の対話 (p4c)」に取り組み始めた教員の対面型研修

#### ●日米教員交流研修

日米教員の実践視察と教員交流、国内教員ハワイ派遣・ハワイ大学関係者訪日



### 令和6年度重点事業

#### ●学校課題解決の取組

学級経営、不登校対策、特別支援教育での「探究の対話 (p4c)」



#### ●連携モデル校との実践・研究の協力

重点化による充実した研修

#### ●コミュニティ・スクールにおける「探究の対話 (p4c)」

「探究の対話 (p4c)」を活用したコミュニティづくり

#### ●「探究の対話 (p4c)」へのICT活用

「探究の対話 (p4c)」へのICT導入、情報モラル教育



### 大学や教育委員会との連携

#### ●大学連携事業

学生活動支援、自主ゼミ (Pすく〜る) の活動支援  
教育体験初年次演習 (1年次)、教育実践探究演習 (2年次) 等  
公開教員講座演習 (県内教員対象)

#### ●教育委員会連携事業

宮城県内教育行政 (白石市・山元町等) との連携、  
「p4c キャンプ」実施・公開研究会協力



上廣倫理教育アカデミーは、「探究の対話 (p4c)」の実践を通して学校現場や地域とともに歩んでいきます。お気軽に問合せ先へご連絡ください。

- 小学校・中学校・高等学校等へ出向いて「探究の対話 (p4c)」の授業実践を行います
- 実践に取り組む教員や興味を持たれた団体を対象に研修会を行います
- 各団体事業や行事において、「探究の対話 (p4c)」体験の場を提供します

昨年度例：宮城県総合文化祭トーク企画、「科学者の卵」養成講座、日本家族心理学会等

「探究の対話 (p4c)」に関する研修の要望にお応えします。定例研修会、シンポジウム等の申し込みも随時受け付けます。